

ふれあいの里 グループホーム上幌向
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700075		
法人名	日総ふれあいケアサービス株式会社		
事業所名	ふれあいの里グループホーム上幌向		
所在地	岩見沢市上幌向北1条4丁目750-6		
自己評価作成日	平成25年12月9日	評価結果市町村受理日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyouSyCd=0195700075-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・職員が入居者様と共に笑顔で明るく毎日が送れるように日々のタスクを解決し、スキルを身に付ける事が出来る様に努力している。
- ・アットホームな雰囲気大切にしており、テーブルを囲み昔馴染みのように「お茶会」が出来るようなホームです。
- ・身体に関しては、毎日のバイタルチェックと観察を施行し、かかりつけ医や往診医と連携をとり病気の早期発見に努めています。
- ・認知症の為、日々の状況に変化があり、対応が困難な場合もあるがフォロー体制をきちんと整えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR上幌向駅から徒歩3分と交通の便がよい場所に位置しているグループホームである。建物内は窓が多くて明るい造りで、全体が広くて清潔である。トイレや洗面所の数も多く、使い易い浴室など設備が整っている。地域とのつきあいが盛んで、町内の方が畑で採れた野菜を届けてくれたり、事業所内のミニ菜園の技術指導やアドバイスをしてもらうこともある。地域コミュニティセンターが散歩コースにあるので、歌やフラダンス、フリーマーケット等を見学させてもらっている。また、町内会主催の盆踊りと事業所主催の盆踊りを同日に時間をずらして開催し、利用者や町内の方々に両方楽しんでもらっている。子供たちとの交流も盛んで、幼稚園児が散歩の途中で遊びに寄ってくれたり、小学5年生と6年生が40人も社会見学として事業所を訪れたりしている。中学生が草むしりに来てくれることもある。また、利用者の馴染みの人や場との関係継続にも熱心で、毎月のように友人が訪ねてくれる利用者もいる。入浴を生活の楽しみのひとつと位置付けて、2日おきの入浴を支援しており、毎日のように入浴する方もいる。天候のよい時期には、近くの公園を散歩し、コンビニに寄ったり、JR駅のバリアフリースロープを登ってみたりと毎日のように散歩する方もいる。冬期でも、吹雪の日以外はなるべく外出の機会を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(1階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のケア会議開始前に全職員で復唱することで理念を再確認し、ケアに活かす事が出来るようにしている。	事業所独自の地域密着型サービスの意義を踏まえた理念があり、1、2階の共用スペースに掲げている他、カード形式にして全職員が携帯している。理念は、毎月のケア会議の初めに全員で復唱し確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の加入により、町内イベント情報を回覧版を通じて知る事が出来るようになった。また、報告に来て頂けるようになりました。散歩の途中では地域の方が声をかけてくださったり、地域のボランティアさんから連絡があり、ホームで催し物を行ってくれるようになった。	コミュニティセンターが散歩コースにあり、歌やフラダンス、フリーマーケット等が開催されているので見学させてもらっている。また、町内会主催の盆踊りと事業所主催の盆踊りを同日に時間をずらして開催し、利用者や町内の方々に両方楽しんでもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症の方に関するお話しが出る場合があり、その際にはどういう変化や行動があるか等を説明している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部からの参加メンバーが固定してきており、少しずつGHの実情が掴めてきた様で、意見も少しずつ出して頂けるようになっている。課題は家族の参加率が低く、参加可能な日程等を聞いて可能な限り反映させているものの、参加率がなかなか伸びていない現状がある。	運営推進会議が2か月毎に開催され、市の担当者や地域包括支援センター職員、町内会役員、利用者、家族が参加し、事業所の現状や行事の報告、外部評価等について意見交換し、議事録も全家族宛に送付しているが、会議の年間テーマは設定していない。	前回の外部評価の取り組み事項である、年間のテーマ設定への取り組みを引き続き期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種ホームで使用する様式の相談などを行っています。また、市からの要請で実習生を受け入れさせて頂いています。	ホーム長が毎週のように市の担当者を訪問し、事業所の実情を報告し、課題解決について相談し情報収集をしている。また、市の依頼を受け、民生委員20名の事業所見学に協力している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が外部研修を受けて発表したり、毎月行われるケア会議で、入居者の行動や特性を十分把握することで、身体拘束や自由を奪わないための統一したケアを実施している。	「身体拘束禁止の対象となる具体的行為」について示したマニュアルを整備し、ケア会議でも身体拘束について話し合っているが、具体的行為についての徹底理解までには至っていない。玄関は日中は施錠せず、センサーで人の出入りを把握している。	今年度、身体拘束についての外部研修に参加申し込みをしたが、当日の人の手配が付かず実現しなかったとのことなので、今年度の実現と、ケア会議場で、参加した職員が研修成果を発表し、全職員で勉強会を行う等の取組を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームの安全対策委員会で虐待や身体拘束のない統一された話し合いを行ったり、社内研修でもテーマで取り上げ他事業所の方との意見交換の場を持つなど、そのようなことがないように徹底している。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している職員はいるものの、対象となる利用者がいないこともあり、全職員が十分理解していると言えないので、必要な入居者がいる場合すぐに対応出来るように、研修やホーム内での研修テーマとして取り上げて行く必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、身元引受人、連帯保証人なども含め、複数名の中で契約を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行ない、意見や要望をもとに、職員と話し合い、その後のサービスに活かしています	家族の来訪時にはホーム長が直接話を聞いている他、3か月に1度「ホーム便り」を発行し、毎月1回、利用者一人ひとりの様子を文書にして家族宛に送付している。また、法人主催の家族アンケートを年3回行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な個別面談を行い、意見や要望を聞き、運営に反映出来るようにしています。	毎月のケア会議で職員は活発に意見交換し、月2回は、ホーム長が職員一人ひとりと話をし意見を聞いている。また、法人の担当社員が年3回、職員と個別面談している。職員は、安全対策、行事、備品、食品などの委員も担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談の中で、目標を決め取り組む事で、やりがいを持てる環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し全職員が参加出来る機会を作っています。また、外部研修や社内研修を行い、今後のケアに繋げていけるよう研修後には自己評価をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会への参加を通し、交流の機会を作れるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人を中心として問題となる点、不安に思っている点を本人から聞くようにしている。また、入居してからすぐに人間関係が築けるように、入居者の生活歴は勿論の事、興味のあることを全職員が把握し、積極的に話しかけるように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がホームでの生活をどのように期待しているのかを細かく聞き出し、対応出来る点を確認し、対応困難な点はどのように対応出来るかを話し合い、家族の期待している生活に近付けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報にとらわれず、実際に本人が出来る事、出来ない事を見極め、出来ない事でも本人が以前行っていた事、または興味を示す事については長期的に支援し、「生きがい・やりがい」に繋げられるようにプランに盛り込んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活してる仲間として、掃除や食事の準備を協働して行い、その中で入居者から教わることも多く、人生の先輩として敬意をはらい参考としている。一日を通して入居者からねぎらいの言葉を頂けることも多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の個別報告書の他、来訪時には本人の生活の様子や今後予測される状況について説明し、家族の想いを聞きながら、支援方法やプランに反映出来るように協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで利用していた床屋に1～2ヵ月に1度行ったり、地元的美容室に通うなど、地域関係を大切にしている。ホーム近くから入居されている方も多いため、地元のボランティアを招き、関わりが途切れないようにしている。	元近所に住んでいた方や老人会で親しくしていた方が毎月のように訪ねてくる利用者があるので、居室でゆっくり話をしてもらったり、レクリエーションと一緒に参加してもらおうなど楽しく過ごせるようにしている。馴染みの喫茶店や手芸店に寄ってお茶や買物を楽しむ利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の活動を通して、利用者の個性を把握し、利用者同士の関係を築いて頂いている。利用者間でトラブルがあった際は、職員が仲介に入り、トラブルが大きくならないようにしている。また、個別に相談にのる事でストレスの軽減、孤立感の解消を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も色々な相談に乗り、協力できる内容については積極的に協力している。また、他の事業所へ移られた際は家族の許可の元、今までの生活の様子や嗜好の部分も情報として伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴・生活背景や嗜好を把握することは勿論の事、本人の表情や行動で何を訴えたいのかを読み取ることや、時には家族とも相談しながら、本人の意向や希望にそえるようにしている。	利用者一人ひとりの生活歴やライフスタイルを把握し、基本情報の記録を蓄積しているところである。言葉で表出できない利用者には表情や態度で思いや意向を把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族は勿論の事、友人・知人からも生活歴や生活背景・本人の性格や嗜好を聞きとり、把握に努めている。また、把握し支援することの重要性も家族に伝え、情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事に注目し、食器拭きや掃除などを一日の生活の中に取り入れることで、生きがいに繋げ、その事を踏まえて一日の過ごし方を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のちょっとした気付きを大切な情報として捉え、ケア会議でのモニタリング、三ヶ月に一度の家族へのプラン説明・変更を行い、その中で職員からのアイデアや家族の希望を参考としケアプラン作成に反映させている。	利用開始時に作成した介護計画は1か月後に見直し、その後は3か月毎にモニタリングし、短期3か月、長期6か月を基本に見直している。日々の記録も介護計画を意識しながら行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や行動・言動を個別記録に記載すると共に、支援してどのような反応があったのかを記録するようにしている。また、普段と違うことがあった際は全職員が把握出来るように「連絡ノート」を活用して情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の日々変わる体調などを考慮して、重病になる前に受診するなど臨機応変に対応し、本人の病気の早期発見、時には家族と待ち合わせを行い受診するなど、家族の安心に繋げられるように対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理容や訪問歯科の活用、福祉用具の紹介などを行い、安全・快適に過ごせる環境を作っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族が信頼をおいて長年かかっている、かかりつけ医のいる病院に受診している。基本的に通院に関しては職員が対応するが、家族から同行の希望があれば待ち合わせなどして受診している。	協力医療機関の内科医の往診が月2回あるが、利用者は自由にかかりつけ医を選択できる。通院支援は職員が中心で必要時には家族が同行している。医療情報は「受診記録」「往診記録」で全職員が共有している。	

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診を受けている方は、体調に変化がある際、都度看護師に報告・指示を受けるように連携を取っている。また、些細なことでも連絡ノートを活用し、その日の体調変化を記録し把握している。それ以外は受診時に1ヶ月のバイタルデータを見せ説明・指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームでの生活リズムを伝え、入院中も生活の障害が最小限になるように努めています。また、面会を通し、看護師から情報を聞き、受け入れ態勢を整える様に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明をし、要望を聞いています。	利用開始時に、利用契約書の中の「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を本人・家族に説明し署名捺印を得ている。現在までに看取りの経験はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し、緊急時に備えている。急変時持ち出しファイルを作成している。担当医師から特変時の対応を説明を受け、職員全員に把握出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練と、定期的な消防器具の点検を実施しています。災害対策は運営会議を通し、話し合いをしています。	消防署の協力を得て夜間対応の避難訓練を年2回行い、町内会班長の参加も得ているが、更に多くの方の参加を呼びかけ中である。救急救命訓練は定期的に行われ、災害時の備品は、事業所スペースの関係で職員の自宅保管としているものもあるが、現在、法人全体で準備を検討中である。	法人全体で備蓄品の準備を検討中とのことなので、その実現を期待したい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレに誘導する際は別な話題で声かけ・誘導を行い、入浴時は人目に触れないように配慮することは勿論の事、個人の意見を尊重し、同性介助を行っている。	利用者への呼びかけは、基本は、名字に「さん」付けだが、本人や家族の希望で、それ以外の呼び方をするケースもある。個人ファイルは、事務室で安全に管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を選ぶ際には現物を見て頂き選択してもらう、嗜好やレク活動なども複数の選択肢の中から選んでもらったり、表情などを読み取って自己決定に繋げている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度1日の流れはあるものの、本人の体調に合わせて、居室で休んで頂いたり、入浴日を変更したり、何か訴えようとしている時はその場でゆっくり話を聞く時間を取っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に本人の行き慣れた理容室に行ったり、特にモーニングケアの際は季節に応じた服装、鏡を見ながらスカーフなど小物を使ったオシャレが出来るように気をつけている。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備・後片付けなどを手伝ってもらいながら、食事中は静かに食べたい方、会話を楽しみながら食べたい方など席も考慮している。食事では盛り付けやホームの畑で採れた食材を使うなどの工夫もしている。	1か月の献立作成と食材の配達は法人が担当しているが、利用者の嗜好に応じて献立を変更したり、菜園で収穫したじゃがいもやとうもろこしを茹でて家族と一緒に楽しむこともある。職員も同じ食事を利用者と一緒にしている。また、2か月に一度、仕出し屋さんのお弁当を全員で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立・栄養バランスは管理栄養士が管理し提供しています。また、食事量は個人の疾病などに応じギザミ食・減量食など個別で提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個人の清潔保持能力に応じて介助しており、嚥下障害を抱える入居者に対しては、スポンジなどを利用し舌苔除去・肺炎防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意をあまり感じない入居者に対しては、排泄パターンを把握し、時間を見て誘導し、トイレでの排泄を促している。	水分・排泄チェック表を活用しながら、昼夜ともトイレでの排泄を支援している。声かけの際には「トイレ」という言葉は使わず「景色を見に行きませんか」など、周囲に気付かれないように声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操・散歩などの運動を取り入れながら、水分摂取量を徹底して管理している。また、食物繊維を摂取しやすい硬さや大きさに工夫し提供し、個々に応じて乳製品の摂取を勧め、予防に役立てている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっているが、その日の体調や気分に応じ、入浴時間の変更や入浴日の変更をし、柔軟に対応出来る体制を整えている。また、どうしても入浴出来ない時は足浴や清拭などで対応している。	入浴を生活の楽しみのひとつと位置付けて、2日おきの入浴を支援している。また、その日の体調や希望で入浴が可能であり毎日のように入浴する方もいる。同性介助を基本とし、ミルクや温泉などの入浴剤も工夫している。入浴を拒否する利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクや散歩などの日中の活動を多くし、生活リズムが整うように支援している。夜間眠れない時は温かい飲み物や悩んでいる相談を受け、安心して休める環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を個別ファイルに保管し、全職員が目を通せる状態にしている。また、薬の変更や注意事項の説明がDrからあった際は連絡ノートに薬剤の効果・副作用・注意事項を記載して把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、掃除や食事準備など本人の得意とすることをお手伝いして頂いている。レクなどの活動場面では昔ながらの遊びや歌などを取り入れ、楽しんで頂けるように配慮している。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力も得て、お墓参りや帰宅、家族のお見舞いなど行い、日常的にも散歩をすることで四季を感じて頂いたり、車椅子でも出かける機会を設けている。本人の嗜好も考慮し、本人の希望があれば個別に外食に出かけている。	季節の変化を感じられるように天候の良い時期には毎日でも散歩している。徒歩圏に2つの公園や中学校、コンビニ、JR駅のスロープなどがありバリエーションのある散歩を楽しんでいる。冬期でも、吹雪の日以外はなるべく外出の機会を作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合いの結果、全て事務所の一時立替となっているが、切符を購入するなどの時は本人に支払いを行ってもらうように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	悩みを抱えている時は家族に積極的に電話することを勧め、ホームで一番静かで、プライバシーが保てる事務所を提供し電話を利用して頂いている。また、手紙を送っている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では、入居者が以前作った物を飾ったり、季節に応じたシンプルな装飾を入居者と一緒に作成し、装飾するように心がけている。照明なども光が強く刺激しないような色で落ち着きの出るものを使用している。	共用空間は窓が多くベランダもある明るい造りで空気清浄機と湿度機が備えられるなど快適な居住空間となっている。広い食堂はオープンキッチンで職員は利用者と会話しながら台所仕事をしている。居間も広く、利用者は食後にソファに座ってテレビを観たり会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアから離れたところに椅子を設置し、外を眺めながら休めるスペースを作っている。また、玄関ポーチにはベンチを用意し、自由に行けるようにしている。事務所も自由に出入り出来るように開放している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族と相談し、使い慣れた物を使用することを促し、タンスなど馴染みの物を揃えて落ちつける環境を作っている。	居室入口には、利用者が認識しやすいように本人の写真や名札を掲げている。利用者一人ひとりの個性に合わせて使い慣れたベッドや筆筒、椅子やぬいぐるみなどが持ち込まれ、居心地のよい居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線に障害となるものは置かず、トイレの標識や場所を特定するのに分かりやすいように照明を当てるなど工夫している。トイレには車椅子でもスムーズに移動出来るスペースがある。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195700075		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株式会社)		
事業所名	ふれあいの里グループホーム上幌向		
所在地	岩見沢市上幌向北1条4丁目750-6		
自己評価作成日	平成25年12月9日	評価結果市町村受理日	平成26年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyoSyCd=0195700075-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2階 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をカード形式にし、常日頃持ち歩き復唱出来る様にしている。 フロアの見える所にも提示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板にて地域の情報を知り行事になるべく参加している。 散歩の途中でも地域の方が声を掛けて下さったりしている。 地域のボランティアさんがホームで催しを行って下さっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で入居者様の状況説明を行っている。 近隣の小中学生の見学にも対応している。 地域の方の質問や相談があれば応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加家族やボランティアさんの意見を尊重し、運営に反映させている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状を伝え、相談など話し合いの機会を設けて頂いたりしている。 地域包括と連携を取り、情報交換を実施している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、身体拘束は行っていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、虐待を理解しているため虐待はありません。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を受け、理解を深める様にしているが現在は利用する対象者が居ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を十分にかけ、契約者に説明し納得して頂いている。 今のところトラブルは無い。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族より質問や不明点があれば、管理者及び計画作成者が可能な限り説明し反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時は職員と面談を持ち、意見や提案を聞くように機会を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ケア会議を通じ、業務改善等について職員全員で話し合い職場環境整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修を計画し実践に結び付けている。 外部研修のお知らせを職員休憩室に掲示し興味を持って参加できるように支援しています。 外部研修に参加できなかった職員向けに伝達研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人系列の合同研修を通し交流の機会を作れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問に行き、生活状況を把握するようにしたり、事前にホームに来て頂き見学や説明を通して日々の暮らし方を理解してもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族との事前面談で、家族の思いや希望を知る。いつでも相談や質問に対応できるような体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談時に必要な情報収集に努め、他サービス利用している際は担当事業所と連携を取っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「年齢を重ねているから分かる」部分を尊重し、共に共同生活を送る事が出来る様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の担当制を実施しており、職員に日々の暮らしを毎月報告書に記入してもらい御家族に郵送しています。新聞も2ヶ月に1回発行しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ともすれば御家族の面会が遠のくような事もあり面会の際は相談しながら協力をお願いしている。お盆やお正月には外出や外泊等も協力して頂く事もあります。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルになりそうな時は素早く対応するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の御家族や知人と出会った際は入居されている方々の様子などをお話したり以前入居されていたことなどのお話をし関係を保てるように支援します。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室等を利用し本音が聞けるような環境作りをしています。本人の意向を把握するのが困難な場合は御家族に協力をして頂きますが、プライバシーには充分気を付けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活や趣味、家族関係等は事前の面談で情報提供で把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通じ、行動パターンなどから本人の全体像を把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人の為のプラン作成の上で、チームワークが一番重要なことであると認識し、チーム力を持ってご本人の生活支援をする。 その為の介護計画が立てられる様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルの状況、排泄、食事量、水分量、生活状況を記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	往診の対応、訪問看護の対応、かかりつけ医への受診介助の施行。 御家族のニーズにも対応できるよう可能な限り。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括や町内会、ボランティアの方が運営推進会議に出席しているので周辺の情報や支援に関する情報交換が出来ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に通院していた病院への受診介助をしている。 情報提供し適切な指示を受けている。 往診Dr、訪問看護師には受診前に受診対応の入居者の情報をFAXしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携し、入居者の様の身体状況に変化があった場合は対応して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医療機関への情報提供の実施。 退院時の医療機関からの情報提供を通じ入居者様の生活に支障がないよう退院時フォローを支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を尊重しつつ、往診Drやかかりつけ医と相談し重度化や終末期にどのように対応すべきか意見を求める様にしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時対応のマニュアルを見直す予定をしています。(既存のはある) 救急救命講習を受けていない新人職員には、受講してもらうようにします。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練と定期的な防火器具の点検の実施。緊急連絡網の作成と配布。 自主点検チェック表を作成し毎月実施している。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの尊重を理解しトイレ誘導を実施している。 衣類の交換時も十分配慮をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「決定」が出来るような会話を引き出す。 意思の疎通が困難な場合は、表情や行動で理解するようにする。 また自己決定が出来るような環境作りをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々に合わせ一日の流れを支援したいが、囲碁や将棋が出来ない事もあり相手をしてあげる事が出来ない会話や歌を楽しむ等は充分出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の更衣の中で、本人の了解のもとバリエーションを考えている。 2ヶ月に1度訪問理容を利用している。 服装の汚れ等には充分注意を払っている。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決められており、職員が立てる事はないが、ある食材で入居者様のリクエストにこたえてメニュー変更する事は多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分のIN～OUTのバランス、体重からみた摂取量、疾病による食事への配慮は支援出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状況に合わせ支援の方法を考え実践している。口腔内の観察も必要時している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーに配慮し、トイレ誘導や介助を行っている。 尿意を上手に訴えられない場合も排泄表などを参考にし支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表からその人の排便パターンを理解し、排便困難な場合は適切な処置ができています。(下剤含む)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の状況に応じて入浴ができる体制にある。 入浴時間も個々に合わせ決めていない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠を訴えた時は、飲み物を提供したり、職員が寄り添って時間を共有したりしている。 昼夜逆転の防止の為日中の過ごし方を検討する必要性を感じている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬事故を防ぐため、内服マニュアルに従い、正しい時間、正しい量、正しい薬を内服して頂くように支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が出来る能力を生かし、日々の生活の中で出来る事をお手伝いして頂いています。		

ふれあいの里 グループホーム上幌向

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事担当者と相談し、外出できるような行事を立ててもらったり、温泉入浴、買い物、散歩など状況や希望によって柔軟な対応が出来る様に支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金はお渡しいしていないが、散歩に出かけた時にジュースを買う金はお渡ししている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話は本人にかけてもらっている。手紙は今まで例はない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝掃除機をかけ、塩素系液を使用し濡れモップにて床拭きしキッチン周りも拭くようにし清潔が保持されるようにしている。 毎朝、窓を開け換気に留意をしている。 その日の天気や気温に合わせ調節を実施している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室では一人になれる事は当然だが、ホールにもテーブルを囲むようなスペースがあり仲良しの方との談話を楽しめる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の状況に合わせ、事前訪問の際に打ち合わせをしなるべく居心地の良い環境を作れるように配慮するようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒の危険が予測されたり、ホームから出て行こうとする方などに対する支援や、その人の能力に応じて自立に向けて小さなことからでも気が付いた所から実践していこうと考えている。		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム上幌向

作成日：平成 26年 1月 9日

市町村受理日：平成 26年 2月 3日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	緊急時の対応の整備と法人全体の取り組みにはまだ至っていないので働きかけが必要。	災害時の必要物品調達システムの整備することと地域の協力が得られるように働きかけをする。	会社のマニュアルが備蓄を用意せず、災害の無い地域から物資の供給を受けることになっているが、緊急時には間に合わないことを想定し最低限度の生活物資が用意できるように、施設独自のシステムを作る。	1年
2	3	運営会議開催時にはテーマを設定して開催することを前回も指摘されていたが、思うようにできていなかった。	行政や、包括にも働きかけなるべくテーマを設定し開催に向けていく。	こちらでテーマを設定するか、他者に協力していただくか連絡を取りあい設定する。 テーマを設定する際には家族の意見を反映させる。	1年
3	5	身体拘束は、今のところ実施していないが職員の意識や知識の不足は否めない。 今後どのように意識付けしていくか。	身体拘束へのスキルを身に着ける。	外部研修や内部研修への参加。 参加後は伝達研修を行うことを義務付ける。 施設内研修も視野に考えて行く。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。